



C ①豊かな人間性コミュニケーション能力、社会性を育むための教養教育を実施する。
P ②子どもの健やかな成長、幸せのために、子ども理解に基づく援助の実践する能力や、子育て支援に係る能力を育成する専門教育を実施する。
③実習や保育実務研修、子育てサロンへの参画など実践現場での学び、関連する大学での学びとの往還によって、保育実践で求められる実務能力や社会人基礎力など保育力が身につく教育を実践する。
④保育のスペシャリストとして、社会の諸問題を解決するための知識・技能、思考力や、自らの持つ能力を伸ばすことのできる専門科目を設ける。

D ①保育者の本質を理解し、保育者としての専門的知識に基づき、子ども理解に基づいた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を修得することができる。
P ②保育の本質を基盤に、時代のニーズに柔軟に対応した保育実践及び改善を行うことができ、外部の資源を有効に活用することができる。
③保育実践に必要な保育技術や情報収集力をもち、子どもとの連携を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。
④豊かな教養と人間性、社会人基礎力を備え、常に資源能力の向上を図り、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していくことができる。